

谷合貴志&鈴木理沙 **祝** 入籍記念インタビュー (8月号 表紙の顔)

「出会ったときは小学生と高校生でした(笑)」

コロナ禍との厳しい闘いが続くプロボウリング界に、久々に明るい話題が飛び込んできた。7月11日、かねてから交際中だった谷合貴志&鈴木理沙両プロが晴れて入籍を発表したのだ。谷合プロはデビューからの7年ですでに4つのタイトルを獲得し、普段は介護施設と経理代行の2つの会社で役員を務める異色の俊英。一方の鈴木プロは“リトル★ファンタジスタ”のキャッチフレーズで知られる人気P★リーガー。お二人の幸せいっぱい気分を本紙読者にもおすそ分けしてもらおう。

(PHOTO: 福地和男 / 取材協力: 相模原パークレーンズ)



新杉田の元支配人が縁結び

—お二人はともに神奈川県生まれでJBCの出身。かなり以前から知り合いだったのでは？

谷合 自分が小学生で、鈴木プロが高校生のときからですね(笑)。

—同じ年の差でも小学生と高校生ではお互い意識のしようがないですね。お付き合いはいつごろから？

谷合 3年前の2月からです。

—きっかけは？

鈴木 新杉田ボウル(2016年閉鎖)の元支配人で、二人ともジュニアのころからお世話になっている前田さんという方の紹介というか…(谷合プロに)何て言ったらいいんだろう？

谷合 ある日、前田さんから自分に電話がきて「お前、彼女はいるのか？ いないなら理沙はどうだ!？」と(笑)。小学生のときに高校生だったのですぐにはイメージがわかなかったんですが、周りの評判もいいし、会って話しても、いつも柔らかい雰囲気の子なので「全然OKですよ」と言ったら、「じゃあ、今度三人でご飯に行こう」と。

鈴木 私には内緒で谷合くんを呼んでいたんです(笑)。
谷合 サプライズしたかったんでしょうね。
鈴木 私も「貴志はどうだ？」と言われていたけれど、小さいころのイメージが強かったので、お付き合いするとかはまったく考えていなかったです。
—可愛い弟分みたいな感じ？
鈴木 そうですね(笑)。プロになって新杉田にいた時代に「駅伝」というチーム戦があって、そこで組んだりもしていたんですが、そのときも特別な意識はありませんでした。
谷合 前田さんが指揮を執って



▲取材日の7月18日はボウリング大好きタレント・黒田アーサー氏(左)を交えてのトリプルチャレンジの開催日。開始前、センター提供のウエディングケーキを前に記念撮影

メンバーを集めていたチームで、自分も何回か仲間に入れてもらっていたんですよ。

鈴木 当時から「(貴志は)いいヤツだぞ!」とは言われていたんですけど、深い話をしたことがなかったの…。会食をきっかけにお付き合いするようになったら、年齢差はまったく感じなくなって、むしろ自分よりしっかりしてるな、と(笑)。

谷合 彼女はP★リーガーで、きらびやかなイメージとホンワカしたキャラの印象が強いと思うんですけど、けっこう苦労しているところもあるし、付き合っている間に、人の見ていないところで努力している姿も見てきました。そうした部分に人としての魅力を感じたことが大きいですね。で、今年の年明け早々に、ボクのほうからプロポーズしました。

—コロナ禍が拡大する前だったんですね。

谷合 去年のうちから決心はしていたんですが、ボウリングでちょっとカッコつけたいという気持ちもあって…。どこかの試合で優勝できたら、その場で言おうと思いつつ、なかなかチャンスをつかめなくて(苦笑)、これ以上待たせたら悪いな、と。ただ、今はこういう状況なので、いつ籍を入れるべきかはけっこう悩みました。

—こういう状況だからこそ、人生のパートナーを得たことは心強いのでは？

谷合 自分は普段介護の仕事もしていて、現場に迷惑はかけ

られないということもあるし、こういう状況で職員の入れ替わりも多いので、責任感を持って立ち振る舞わなければいけない。結婚したからといってあまり浮かれてはられないという気持ちもあります。

鈴木 私は心強いです(笑)。
—どんな家庭を築きたいですか？

谷合 子供が好きなので、自分の手で育ててみたい気持ちもありますが、彼女もまだプロボウラーとしての夢があるのなら、それを追いつけてもらいたい。今はママさんプロも多いので、いつか育児休業しても、ボウリングには戻ってほしいというのが希望です。

—同じ“姉さん女房”として、鈴木プロには先輩の中谷優子プロ(28期)がいいお手本になるのでは？

鈴木 そうですね。中谷プロと、京産大の先輩の吉田真由美プロ(31期)にはいつも気にかけていただいています。

再確認したボウリング愛

—昨シーズン、谷合プロは優勝こそないものの、10大会中9大会で入賞。うち準優勝が2回という成績でポイントランキング7位。鈴木プロは10大会中6大会の入賞で31位でした。

谷合 ジュニアのころから、神奈川には上の世代に山本勲さん(44期)がいて、自分を含めてみんな「勲さんみたいになりたい」という気持ちで投げっていました。全体的にレベルが高なかで経験を積んだことが、プロになってからの成績につながっていると思います。

—鈴木プロは初戦の女子プロオールスターゲームが唯一ひとケタ入賞の8位でした。

鈴木 主催者推薦で出させてもらったんですが、すごく楽しかったです。実は、それまでラウンドロビンの経験がなかったので(苦笑)。

谷合 ラウンドロビンはプロボウラーの憧れの舞台で、新人プロからも「ラウンドロビンで投

げてみたい」という声をよく聞きます。彼女もオールスターゲームに出場できたことはいい経験になったと思います。

鈴木 (頷く)

谷合 実は、自分が女子プロのなかでいちばん尊敬しているのは時本(美津子・7期)さんなんです。時本プロが初優勝したのって、38歳のときなんですよ？



▲ROUND1 GRAND CHAMPIONSHIP 2019ファイナル準V当時の谷合プロ(19年11月9日、ラウンドワン南砂店)

—はい。で、そこからハイペースでタイトルを積み上げていきました。

谷合 時本プロが勝ちまくっていたところに、自分はボウリングを始めたんです。彼女は当時の時本プロよりも年下だし、今はその時本プロからもいろいろアドバイスをいただいているので、今後が楽しみです。

鈴木 相模原の所属になってから、時本プロや(永野)すばるプロ、市原(竜太)プロ(ともに40期)と結果を残しているプロから身近にお話を伺えることがすごく刺激になって、私も頑張ろうという気持ちがよりいっそう高まりました。

—今年はコロナ禍の影響でイレギュラーなシーズンになりました。先行きも不透明ですが、お二人の現在の思いは？

谷合 雨の日も雪の日も、ヤリが降っても普通に投げられていたボウリングが、ウイスルのせいできなくなった。でも、そうした期間があったことで、逆に投げたい気持ちがすごくわいてきました。自分は本当にボウリングが好きで、それが生活の



▲ルール改正に伴ってメカテックを外した鈴木プロはツアーの再開を待ちわびている(18日撮影)

一部になっていたことを改めて確認できて、また一番を獲りたい気持ちが強くなった。再開後はどの大会に照準を合わせてとかではなく、自分のボウリングをとことん突き詰めて、いつでもベストを尽くせる状態に持っていきたいです。

鈴木 私も、ボウリングが好きな気持ちを再確認できた期間でした。結婚してこの先のことを考えると、どこまで現役でできるかわかりませんが、一つひとつ、投げられる機会を大事にして、そこでいい結果を出していけるようにしたいです。

谷合 今年からリスタイが禁止になったので、自分が小さいころから教わっていた人に彼女を見てもらっています。(鈴木プロに)ボウリングが変わってきているので、それを試したい気持ちもあるでしょう？

鈴木 (頷いて) 去年まではメカテックを着けていましたから。いろいろ見つめ直してシフトチェンジするいい期間になったとプラスに考えて、結果もいい方向に持っていけたらと思う。早く投げたいですね(笑)。

たにあい・たかし / 1989年12月5日生まれ、神奈川県出身。168㌢、57㌢、右投げ。血液型B。2013年プロ入り(52期/ライセンスNo.1289)。優勝4回。昨年度ポイントランキング7位、アベレージ216.85。(株)日本ケアクオリティ、(有)ユウキシステムサービス所属。

すずき・りさ / 1983年9月29日生まれ、神奈川県出身。153㌢、右投げ。血液型A。2008年プロ入り(41期/ライセンスNo.444)。昨年度ポイントランキング31位、アベレージ204.99。P★リーガー。相模原パークレーンズ所属。